

中 国**繊維業況****上半期の化繊業界の利益は3倍増へ**

国家統計局によると、2010年1～5月の中国の化繊業界の利益は前年同期比3倍増の80.66億元となった。2010年に入り、内需が順調に拡大、輸出の好転によって、化繊業界の利益は改善した。赤字企業の比率は14.57%と前年同期比10.09ポイント低下した。また、1～5月の化繊業界の工業総生産高は前年同期比37.79%増の1,876.25億元であった。

2010年1～6月の化繊生産量は前年同期比13.43%増の1,447.4万ト、1～5月の化繊輸入は10.87%増の36.59万ト、同期間の輸出は50.21%増の79.2万トであった。

化繊の生産・販売状況は良好であったが、前年同期比では、生産販売率は下がっている。1～5月の化繊業界の平均生産販売率は96.82%で、前年同期比を1.56ポイント下回った。レーヨンは7.07ポイント、アクリルは6.27ポイント下回ったが、ポリエステルは0.13ポイント上回った。

化繊の生産増により、原料需給がタイトとなり、一部の原料輸入は増加した。1～5月の主要合繊原料輸入は前年同期比11.62%増の667万ト、うちEG、PTAはそれぞれ18.92%増の285万ト、4.93%増の272万トとなった。溶解パルプの輸入は59.74%増の53.69万トであった。

1～6月の化繊業界の実際完成投資額は前年同期比29.25%増の148.38億元であった。投資件数は計339件、うち新規着工は195件であった。業界別には、ナイロンは65.81%増、レーヨンは59.17%増、ポリエステルは11.05%増であった。

原料価格の動向をみると、PX価格は5月に原油価格の下落につられ下落、6月に原油価格が反発したものの、PX価格は供給過剰から、反発力が弱かった。PTA価格の動きはPX価格と平行していたが、先物取引の影響から、PX価格に比べ比較的安定していた。EG価格は2009年末に高騰した後、原油価格の下落に伴い低下した。中東、特にサウジアラビアの供給増加の影響、国内の新プラントの稼働開始から、国内EG市場は供給が需要を上回っている。

化繊の川下市場をみると、関連9大品種の生産量は軒並み増加した。化繊紡績糸は前年同期比28.66%増、化繊織布は12.15%増、不織布は19.28%増、タイヤコードは18.12%増であった。中国軽紡城の取引量は春節後に急速に回復した。

綿花価格をみると、2010年に入り綿花需要の拡大、新疆綿花の輸送

問題などから、国内価格は上昇を続けた。綿花価格の上昇は特にレーヨン短繊維価格の上昇を引き起こした。

2010年下半期の化繊業界の成長速度は、上半期より緩やかになる見通しである。2010年通年の見通しは以下の通り。

市場動向：世界の景気回復、原油価格上昇、原料価格、綿花価格の上昇から、寡占価格は上昇基調となる。しかし、多くの化繊はかなりの高値帯にあり、川下への転嫁を考慮すると、高値圏から大きな変動はない見込み。

生産量：着実に拡大、化繊生産量は前年比10%増の2,980万トに達する。

輸入量：小幅に増加、輸入量は前年比5%増の90万トとなる見込み。

輸出量：大幅に増加、輸出量は前年比35%増の200万トに達する見込み。

利益：大幅に増加、利益総額は120億～135億元になる見込み。

合繊業況

スパンデックス業界が直面する懸念

中国では、ここ2年、良好な収益から、国内スパンデックス業界に投資熱が起きている。2009年末時点の世界のスパンデックス生産能力は62.58万ト/年であるが、中国の生産能力は35.5万ト/年と世界の57%を占める。既存企業の増設に加え、新規参入も活発であり、多くの業界関係者は、原料供給の安定、川下需要が拡大するスパンデックスの供給を消化できるかどうかの2点を懸念している。

原料供給

中国では乾式技術がメインであり、2009年末時点の乾式スパンデックス企業は浙江華峰、暁星、Invista、煙台スパンデックスなど約30社、生産能力は約33万ト/年である。主要原料はPTMEG、MDIであり、その価格がスパンデックス市場の安定性に影響を与えている。

見通しによると、国内のMDI生産能力は2010年に100万ト/年に達するが、同年の中国のスパンデックス生産能力が35万トとすると、MDIの必要量は10万トであり、MDIの供給はスパンデックス市場に大きな影響を及ぼさない。これに対し、スパンデックス原料の70～80%を占めるPTMEGは状況が異なっている。近年、国内のスパンデックス生産能力が急増にともない、国内でPTMEGが不足、価格が上昇している。PTMEGの多くは米国、日本、台湾から輸入されており、中国のスパンデックス市場の安定性に影響を及ぼす重要な要素とみられる。

川下需要

2009年の中国のспанデックス需要は約19.5万トであった。спанデックス価格の低下から、国内では中低レベルの用途拡大が進んでいる。また、中国の繊維品輸出の回復に伴い、спанデックス需要も更に増えることが期待されている。さらには、インド、パキスタン、ベトナム、インドネシアなどは、綿紡績、ポリエステル、アクリルなどが発達している一方、спанデックス産業が遅れている地域が、中国製спанデックスの潜在市場として期待されている。この他、東欧、ロシア、南米、アフリカなども可能性がある。

しかし、国内ではспанデックスの供給過剰の兆しがみられている。ここ2年、新たな設備が相次ぎ稼働を開始、業界関係者は、2011年に降競争が激化するとみている。中国のспанデックスの大部分は、定番品で差別化品は少ない。差別化率は30%以下と、先進国の50%以上を大きく下回っている。

ドイツ

研究開発

自動車用インテリジェント繊維を開発する INSITEX

ドイツ連邦教育研究省の研究開発プロジェクトである INSITEX では、自動車メーカーの Daimler (ベンツ) も参加して、自動車のドライバーの安全性を高めるインテリジェント・テキスタイルの開発を進めている。例えば、シート、ハンドル、天井材等にテキスタイル・センサーを使用し、ドライバーの状況をモニタリングすることで事故を未然に防ぐ。Daimler の研究開発者によると、世界の人々が自動車内で過ごす時間はますます長くなっており、自動車内装のデザインや機能がさらに重要になっている。一方で、自動車産業ではコストと信頼性が重視されると指摘しており、採用にはコスト低減と信頼性確保が重要な要素となっている。

MobileTex によると、Daimler は6月に、シートの使用状況認識および心電図のモニタリング用のセンサーを備えたシートのプロトタイプを発表している。また、INSITEX プロジェクトにおいて、ドライバーの身体状況をモニターするセンサーを備えたハンドルを開発している。

INSITEX は2007年から開始された共同研究プロジェクト。Daimler、FZI、FHG IZM、W Zimmermann、Fritz Moll Textil、IG Bauertex の企業、研究開発機関などが参加している。目標としては、ドライバーの疲労度のモニター、ドライバーの各種状況(ストレスや注意力)、シートポジションやシートベルトの調整などが掲げられている。